

**「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における  
教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）  
の視点からの学習・指導方法の改善の推進事業 審査基準**

**1. 選考方法**

文部科学省に設置された「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進事業選考委員会」（以下「選考委員会」という。）において、研究実施計画書等による書類選考を実施する。なお、必要に応じて選考期間中に提案の詳細に関する追加資料の提出を求めることがある。

**2. 採択案件の決定方法**

提案された企画について審査を行い、25点以上の得点を得た者のうち、予算の範囲内で得点の高い複数の者を採択案件に決定する。

**3. 評価方法**

評価は、以下の各評価項目について次の評価基準による5段階評価とし、各選考委員の評価得点を平均したものを当該提案者の得点とする。なお、「各選考委員の評価得点」の算出方法は下に示すとおりとする。

**【評価基準】**

- 5点…大変優れている（大いに当てはまる）
- 4点…優れている（当てはまる）
- 3点…普通である（概ね当てはまる）
- 2点…やや劣っている（どちらとも言えない）
- 1点…劣っている（当てはまらない）

**【「各選考委員の評価得点」の算出方法】**

各選考委員の評価得点

＝評価項目(1)の①の得点×2

＋評価項目(1)の②・③、(2)・(3)の①～③の各項目の得点の合計

（従って、各選考委員の評価得点は、最高50点となる。）

## 【評価項目】

### (1) 研究内容に関する評価（各 5 点）

#### ① 事業趣旨との整合性

研究内容が、公募要領の「2. 趣旨」を十分に踏まえたものとなっている。

#### ② 広範な実践可能性

研究内容が、地域・年齢・経験等に依存せず、幅広い層の教師が実践可能な取組となっている（ただし、一定の地域性を前提とした取組については、その必要性・有効性を考慮したうえで高く評価する場合もある）。

#### ③ 過去の実践等の蓄積

既にある程度の研究や教育実践の蓄積があり、更にその内容を深めて広く展開するような取組となっている。

### (2) 実践地域における実践計画に関する評価（各 5 点）

#### ① 組織的な研究実施体制

実践協議会の設置などを含め、研究を適切に行うため、実践地域としての取組内容を組織的に実施する体制が示されている。

#### ② 成果と課題の見通し

取組の成果と課題を見据えて、計画的に研究を実施する見通しが示されている。

#### ③ 費用の効率性

最少の予算（経費）で最大の効果が得られるよう、コストを抑えた提案内容となっている。

### (3) 拠点校における実践計画に関する評価（各 5 点）

#### ① 研究課題との整合性

実践地域において設定した研究課題を踏まえ、その研究に資する取組内容となっている。

#### ② 組織的な研究実施体制

研究を適切に行うため、拠点校としての取組内容を組織的に実施する体制が示されている。

#### ③ 成果と課題の見通し

取組の成果と課題を見据えて、計画的に研究を実施する見通しが示されている。